

2024年9月30日(月)

老球の細道831号

9月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

カブトニオイ亀が我が家の一員となった。水槽で一層懸命に泳いだり、歩いたりする姿に家族が癒されている。「敬老の日」があったのに家族の視線は私より亀とスマホに。爺の心にすきま風が吹く。暑さが続くが団扇、扇風機、クーラーは無用となった。

1・テレビから

◆「どんな民族でも僕は助ける」〈NHKスペシャル〉：第2次世界大戦でナチスドイツからユダヤ人を救った日本人外交官の杉原千敏の言葉である。現在イスラエルのパレスチナガザ地区攻撃で、当時ユダヤ人を助けたことが現在の火種だと理不尽な批判を浴びているという。民族、人種、宗教、思想の違いによる争いごと、殺し合いはいつなくなるのだろう。

1・読書から

◆「戦争は体験しない者こそ快し」「すべて剣をとる者は剣によって滅ぶだろう」〈『人類の知的遺産・エラスムス』二宮敬著：講談社〉：15～16世紀に活躍したオランダ出身のヒューマニスト。聖職者の偽善を暴いたことで有名。戦争は決めた人たちが安全な場所にて、決められた人たちが命をかけて戦う。ウクライナ、パレスチナみなしかり。

◆「他者を理解するということは、つねに自分の常識を疑うということでもあります」〈『知の技法』小林康夫編：東京大学出版会〉：自信満々の前兵庫県知事。あの根拠のない自信はどこから生まれてくるのか。毎日の新聞、ニュースをじっくり見たり、聞いたりしなければ。

2・新聞から

◆「庄島家の教えは“常に大きなサイズの靴を履け”。人生の岐路に立った時、大きな目標を掲げ、全力で立ち向かうとの意味だ」〈朝日：スポーツ〉：庄島辰堯さんはアメフトで米国UCLAに留学し日本人初のNCAAデビジョンI選手となった。卒業した今は生成AIを活用した事業を行っている。室井家では「退靴」「窮靴」「卑靴」を履かせてしまったか。

◆「危機対応の大原則は“準備していないことはできない”。任期延長ではなく、ふだんの地道な準備の積み重ねで初めて効果的な対策が可能となる」〈朝日：憲法を考える〉：地震、災害などの危機対応に憲法改正が必要か否か。バスケット接戦のゲームを制する危機対応もふだんの地道な練習あるのみ。地道な準備にバスケの神様が「運」を与えてくれる。

◆「私はまだ生きている。本気になって生きている。嘘をついて生きてみたいとは思わない。真から本気になって生きてみたい」〈朝日：天声人語〉：「もう一息、もう一息・・・」の詩で有名な武者小路実篤（作家）の言葉である。敬老の日、日本では高齢者が全人口の3割を超えた。私もその一人。犬も歩けば高齢者に当たる。まだまだバスケットを極めたい。

◆「時間や労力を惜しんでは、世界に通じるものは作れない」〈朝日：天声人語〉：真田広之氏が主演したドラマ「SHOGUN 将軍」が米国エミー賞に輝き史上最多の18部門を制した。細かい所までのこだわりが評価された。何事もホンモノは細部に宿る。